

令和2年度 “ふじのくに”^{しみん} 土民協働 施策レビュー 改善提案とりまとめシート

1 基本情報

政策	政策7 “ふじのくに”の魅力の向上と発信		
政策の柱	7-2 文化芸術の振興		
議論した施策	(1) 地域資源を活かした文化芸術の振興		
実施日/班名	10月11日(日) 第4班	担当部局名	スポーツ・文化観光部 文化政策課

2 コーディネーター取りまとめコメント (コーディネーターが議論を総括して取りまとめ)

静岡県にとって、文化とは衣食住全般であることを国に先駆けて条例で定義づけていることや、世界水準の舞台演劇組織SPACなど、大きな特徴が多々ある一方で、その特徴が県民に伝わっていなかったり、県として目指している地域資源を活かした文化芸術の振興に、必ずしも結びついていない事などの課題がある。これらを解決するに当たって、以下の方策が考えられる。

- 富士山など地域に根ざした文化資源と文化芸術の結び付けや市町のサポートなど、地域に根差した文化活動を更に広める。
- SPACが実施する中高生鑑賞事業を通じた子供へのアプローチなど、県が様々な事業を実施していることが知られていないので、県の活動が伝わるために工夫をしていく。
- 地域間格差を無くすための工夫 (オンライン公演など、全ての県民が文化芸術に触れやすい環境を整備)。

これら3つのことを通して、静岡県と言えれば文化芸術に溢れる県だということを県民皆が思えるようになるのではないかと。

3 施策改善案 (県民評価者が記載した改善提案シートの取りまとめ)

- 県の活動(施策)が「伝わる」ための工夫として、SNSや新聞、掲示版等のあらゆる手段を活用して、伝えたい世代に合わせた広報を実施していくことが必要である。
- 静岡の地域資源を活かした文化活動の取組が十分とはいえない。例えば、富士山と文化芸術を結び付けたり、地域の祭など地域に密着した文化活動をさらに広めることが必要である。
- 県民が文化芸術に興味を持つために、子どもへのアプローチを一層強化することが必要である。静岡県舞台芸術センター(SPAC)の中高生鑑賞事業を拡大するなど、子どもや若者が文化芸術活動に触れる場を創出すべきである。
- 文化芸術の享受に対する地域間格差をなくすため、オンラインの活用等、複数の手段を設けるなどの工夫をし、県民が文化芸術に触れやすくしていくことが必要である。